

第5章

地域づくりの基本方向

第5章 地域づくりの基本方向

1 地域づくりの基本的な考え方

今、本道は急速に進行する人口減少などの難題に直面しています。さらには、新型コロナウイルス感染症という危機の発生により人やモノの流れが抑制されるなど、新たな課題も表面化してきています。

一方、新型コロナウイルス感染症への対応を進める中で、人々の考え方や行動に変化が生じ、距離や地域構造などこれまで本道にとってハンディとなっていたものが新たな価値へ転換してきているほか、デジタル化の推進や脱炭素化^{*}及び気候変動への適応に向けた動きの加速化など、社会が大きく変革する兆しが見えはじめています。

こうした中でも本道が将来にわたって発展していくためには、道民及び市町村の創意と主体性が発揮され、これまで以上に地域の特性や資源などを活用した取組が持続的に進められることが必要であり、そうした取組の効果を高めるため、官民連携をはじめ多様な主体と連携・協働していくことが重要となります。

また、広大な本道の地域振興を効果的に進めるためには、コミュニティや集落といった身近な生活単位から、市町村、保健医療福祉圏、振興局所管地域、連携地域といった様々な地域の単位において、人と人とのつながりや地域と地域の結びつきにより、相互に連携・補完し合うことが必要です。

加えて、地域の実情に即した課題を解決していくためには、地域づくりの拠点である振興局の機能強化や、地域の意向を踏まえた権限移譲など地方分権に係る取組を進めるとともに、ふるさと納税やクラウドファンディング^{*}といった民間資金の活用を進めていく必要があります。

このため、『輝きつづける北海道』の実現に向けて、次の基本的な2つの視点に基づき、第3章「中期的な推進方向」に掲げる3つの重視すべき視点も踏まえながら、地域の総力により地域づくりを進めます。

地域づくりの基本的な2つの視点

個性と魅力を活かした 地域づくり

- 地域の特性・優位性や豊かな地域資源の活用
- 振興局と市町村が一体となった取組の推進

様々な連携で進める 地域づくり

- 道内外の多様な主体との連携・協働の推進
- 地域相互の連携・補完の推進

○ 地域の特性・優位性や豊かな地域資源の活用

- ・ 地域づくりを進めるにあたっては、地域の特性や豊かな地域資源を活かし、産業間の連携や分野横断的な連携による取組を進めるとともに、地域づくりを担う多様な人材を育成・確保します。
- ・ 豊かな再生可能エネルギー^{*}や優れた自然環境、広大な森林など北海道の優位性を最大限に活用して、2050年までの「ゼロカーボン北海道^{*}」の実現による持続可能な地域づくりを進めます。
- ・ 国から道へ、道から市町村への事務・権限移譲を推進することで、創意と主体性が存分に発揮できる地域づくりを進めます。

○ 振興局と市町村が一体となった取組の推進

- ・ 振興局が地域づくりの拠点として市町村との連携を一層強め、地域の実情に応じた施策を効果的に展開します。
- ・ 地域づくりを担う多様な主体の育成・確保とその活用、地域を重視した職員の配置、職員派遣などにより、振興局が市町村を積極的にサポートし、一体となって地域づくりを進めます。

様々な連携で進める地域づくり

○ 道内外の多様な主体との連携・協働の推進

- ・ 道民や市町村はもとより、民間企業や金融機関、NPO、大学といった地域づくりを担う多様な主体のつながりを深め、これらの主体と連携・協働して、地域づくりを進めます。
- ・ また、地域や地域の人々と多様な形で関わる関係人口^{*}や、資金提供、協働活動などにより北海道を応援してくださる道外企業などとも、地域づくりの担い手として連携・協働を図ります。

○ 地域相互の連携・補完の推進

- ・ 市町村が様々な行政サービスを持続的に提供できるよう、定住自立圏^{*}など国の広域連携制度の活用を図るほか、地域の実情や特性に応じた本道独自の取組を進めるなど、広域連携による持続可能な地域づくりを進めます。
- ・ 札幌市の都市機能と道内市町村が有する資源を結びつけ、産業振興や活性化の取組を推進するほか、札幌圏の住民が地域と多様な形で関わる関係人口の創出・拡大を図るなど、札幌市と道内市町村の双方がメリットを享受できる関係を構築します。
- ・ 道内市町村と首都圏をはじめ国内外の様々な地域とのつながりを深めることで、本道全体の発展につなげていきます。

連携地域	道央広域			
中核都市(群)	札幌市	(小樽市)	(室蘭市)	(岩見沢市)
	(苫小牧市)	(江別市)	(千歳市)	(登別市)
	(恵庭市)	(北広島市)	(石狩市)	(白老町)
地域中心都市	滝川市	砂川市	深川市	伊達市
	倶知安町	岩内町	余市町	浦河町
	新ひだか町			

連携地域	道南	
中核都市	函館市	
地域中心都市	八雲町	江差町

連携地域	道北		
中核都市	旭川市		
地域中心都市	留萌市	稚内市	士別市
	名寄市	富良野市	羽幌町

連携地域	オホーツク	
中核都市(群)	北見市	(網走市)
地域中心都市	紋別市	遠軽町

連携地域	十勝	
中核都市	帯広市	

連携地域	釧路・根室	
中核都市	釧路市	
地域中心都市	根室市	中標津町

3 地域づくり推進の手立て

この計画の第5章「地域づくりの基本方向」は、長期的な視点に立った地域振興の方向を示すものであり、この方向に基づいた具体の施策や主な取組は、北海道地域振興条例に基づく地域計画である「連携地域別政策展開方針」に基づき、地域における計画推進の要としての役割を担う振興局が中心となって、実効性の確保を図ります。

また、地域づくりを進めるに当たっては、北海道創生総合戦略に基づく取組に加え、北海道強靱化計画、北海道 Society5.0 推進計画、北海道地球温暖化対策推進計画に基づき、北海道の強靱化やデジタル化、脱炭素化※などを図る取組、さらには、北海道交通政策総合指針に基づく交通ネットワーク形成の取組など、重点戦略計画や特定分野別計画に基づく取組と連携を図りながら、一体として推進します。

<連携地域別政策展開方針>

広域的な地域の区分ごとに地域振興を効果的に推進するための「地域計画」として位置づけ、市町村や民間の方々など多様な主体の参画を得て策定する計画。

総合計画が示す政策の基本的な方向に沿って、6つの連携地域と14振興局の施策の展開方向や主な取組を示すもの。

4 地域の姿

6つの連携地域の「地域づくりの方向」と連携地域を構成する14の振興局所管地域の「重点的な施策の方向」を示しています。

道央広域連携地域

空港・港湾などの物流拠点や大学・企業等の研究・開発機能が集中する立地環境の優位性を活かした産業集積の促進及び産学官金^{*}連携の推進により、本道経済をリードする産業の活性化と雇用の場の創出や産業人材の確保・定着に取り組みます。

稲作、畑作、畜産、漁業など地域の特色を活かした多種多様な農林水産業の展開を図るとともに、豊かな自然・資源を活用し、脱炭素化^{*}や経済の活性化などを図り、持続可能な地域づくりを推進します。

全国的に有名な温泉地、アイヌ文化、ジオパーク^{*}、産業遺産など多彩な地域資源を活用した観光振興や文化・歴史の継承・活用を図ります。

防災・減災、国土強靱化に資するインフラ整備、感染症対策を含めた地域医療の充実や少子化対策、ICT^{*}を活用したテレワーク^{*}の推進など、安全・安心で住みよいまちづくりを進めます。

空知地域

スマート農業^{*}の推進や脱炭素化に向けた新エネルギー^{*}の導入など、地域の特性を活かした産業振興や人材の確保・定着を図るとともに、空知産農産物のブランド化や、販路開拓を推進します。

また、空知ならではのワインや日本遺産「炭鉄港」をはじめ、地域資源を活用した魅力の積極的な発信を通じた北海道ブランドの強化や、ワーケーション^{*}の推進など、関係人口^{*}の創出・拡大を図るほか、コンパクトなまちづくりなど、安心して住みよい暮らしのできる地域の形成を推進します。

石狩地域

産業、医療、教育、交通などの充実した都市環境と自然環境が共存する地域特性を活かし、新たな生活様式に対応した働き方であるテレワーク等の推進により、若者や子育て世代の移住・定住、企業の本社機能の地方移転などを促進します。

また、今後も大型集客施設の建設や大規模イベントの開催などによりさらなる発展が期待される地域の魅力を発信しながら、関係人口の創出・拡大を図ります。

後志地域

ICTを活用した農業の省力化、地域材の利用、水産物の安定供給など、基幹産業である農林水産業の持続的発展やブランド化を図ります。

また、国内外の新規需要の喚起による国際観光リゾートエリアの再構築や新幹線開業を見据えた地域交通ネットワークの構築による広域観光の推進、多様な人材と仕事のマッチングによる通年雇用化、ワーケーションの推進、増加する外国人住民とともに地域づくりを進める多文化共生の実現を図ります。

胆振地域

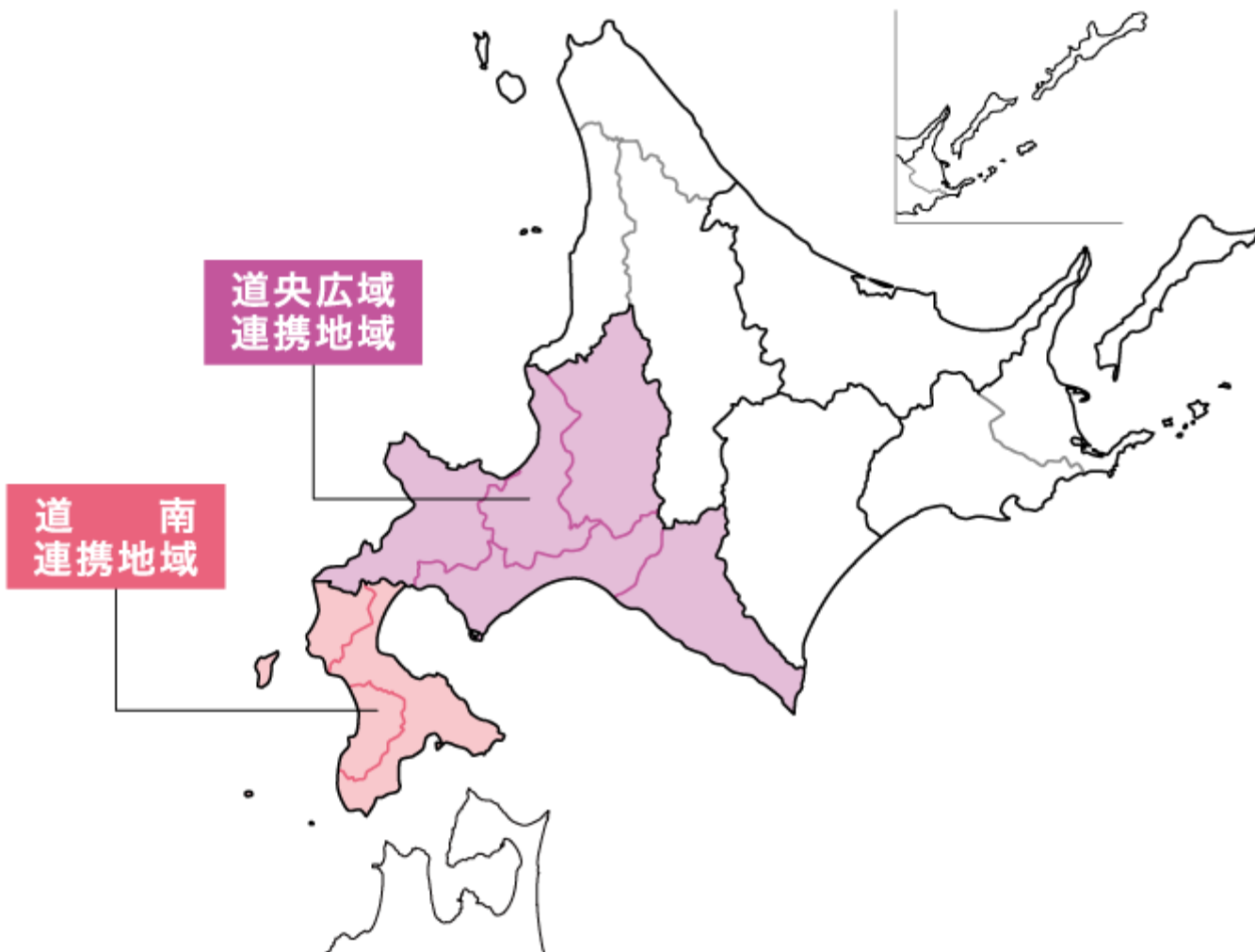
いぶり五大遺産^{*}をはじめとした特色ある豊かな地域資源を活かした取組により、地域の魅力を一層高め、関係人口の創出・拡大を図ります。

また、優れたものづくり・エネルギー産業の集積や交通・物流アクセスの良さ、さらには脱炭素化の取組など、胆振の優位性を活かした産業の振興と地域の未来を支える人材の確保・育成を図り、活力あふれる持続可能な地域づくりを推進します。

日高地域

「ひだか」製品のブランド力の向上や消費拡大、移住・定住やワーケーション等を推進し、地域産業の振興や人材の確保・育成を図ります。

また、全国一の軽種馬生産地としての牧場風景、ユネスコ世界ジオパークのアポイ岳、日高山脈や襟裳岬などの豊かな自然環境、アイヌ文化などの地域資源を活かし、「ひだか」の魅力発信や体験型観光の推進、広域観光の展開を図ります。



道南連携地域

地域固有の食や歴史文化等の資源に磨きをかけ、北海道新幹線の札幌開業を見据えた広域観光の促進による関係人口^{*}の創出・拡大を推進するほか、農林水産業の生産力向上と担い手の育成・確保を図りながら、高等教育機関や試験研究機関と連携した産業振興を推進し、地域特性を活かした企業誘致の促進など、経済の活性化と雇用の創出に取り組みます。

また、再生可能エネルギー^{*}の活用をはじめ、豊かな自然環境と調和した脱炭素型の地域づくりの推進や快適で安心して暮らせる地域社会を形成します。

渡島地域

北海道新幹線や縄文遺跡などの特色ある多様な地域資源を活用した魅力の発信を官民連携により行うほか、新たなワイナリーや酒蔵などによる食のブランド化を進めるとともに、ワーケーション^{*}の推進などにより関係人口の創出・拡大を図ります。

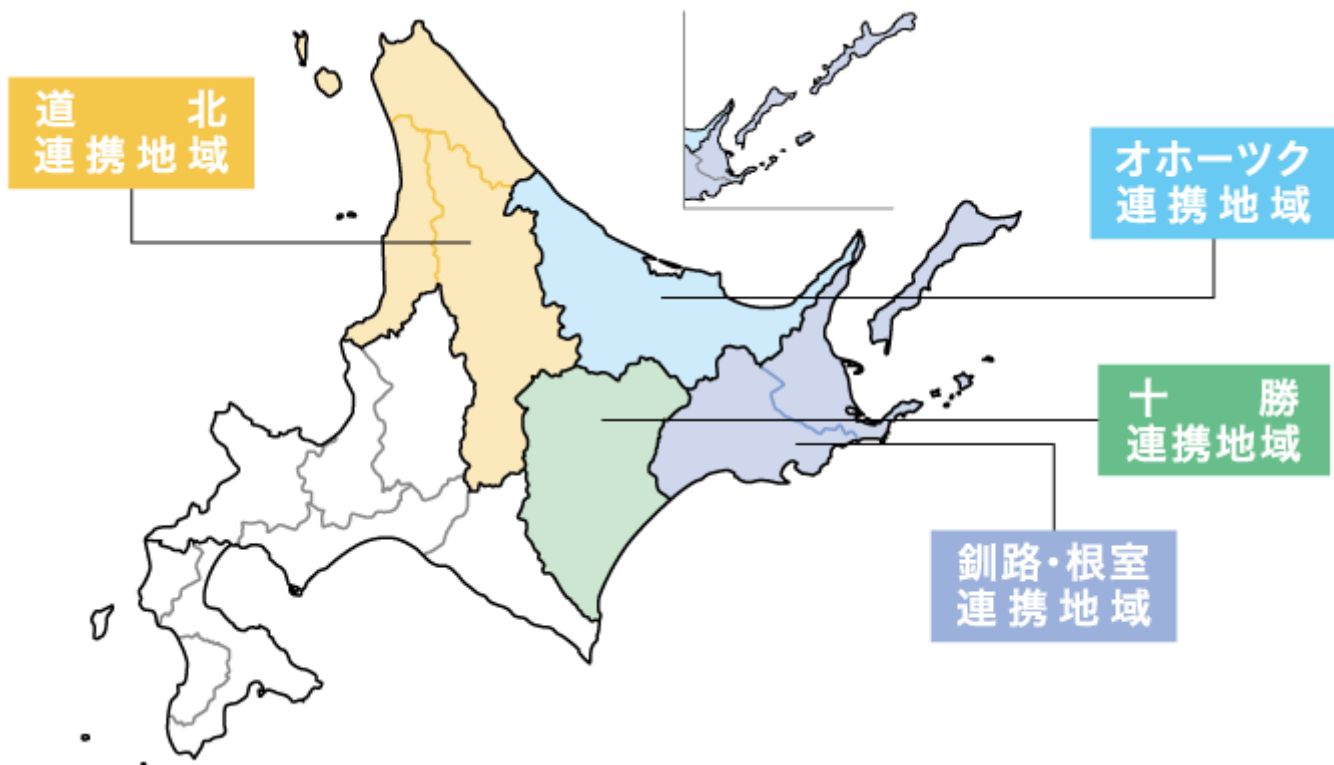
また、地域を支える農林水産業の振興と人材の育成・確保の取組を推進するとともに、人口減少下においても快適で安心して住み続けることができる定住環境づくりを推進します。

檜山地域

増養殖やブランド化による漁業振興、スマート農業^{*}や高付加価値化の推進等により、持続可能な農林水産業の展開を図ります。

新幹線駅等からの広域観光ルートづくりや、食と歴史文化を組み合わせた観光資源の磨き上げ、ワーケーションの推進などにより関係人口の創出・拡大を図るとともに、再生可能エネルギーの導入拡大により2050年までの「ゼロカーボン北海道^{*}」の実現へ貢献します。

地域医療連携推進法人による広域医療体制の確保など安全・安心の地域づくりをめざします。



道北連携地域

高品質米を産出する稲作、多種多様な畑作、大規模な酪農、海域の特性を活かした漁業、豊富な森林資源による林業の活性化を図るとともに、農林水産資源などを活用した産業の振興に取り組みます。

天塩川や大雪山、日本海オロロンライン、利尻礼文サロベツ国立公園など多様な観光資源を活かした魅力あふれる観光振興に取り組むとともに、風力、木質バイオマス*などの新エネルギー*の活用や離島振興など、豊かな自然と調和した脱炭素型の地域づくりを進めます。

また、地域の魅力ある資源を活かした移住・定住の促進やワーケーション*の推進など関係人口*の創出・拡大に向けた取組を進めます。

地理的・歴史的に関わりの深いロシア連邦サハリン州との多様な交流を進めます。

上川地域

高品質ブランド米や多種多様な野菜などが豊富に生産される農業、全道一の面積を擁する森林資源など、地域が有する豊かな資源を活かした農林業の振興に取り組みます。

天塩川や大雪山など特色ある自然や多彩な食、旭川空港の機能や旭山動物園などの観光資源の活用、広域観光の推進などによる道内容の集客強化をはじめとした足腰の強い地域観光づくりやスポーツ合宿の誘致などによる地域の魅力向上、雇用創出、関係人口の創出・拡大を図ります。

留萌地域

日本海オロロンラインの自然やバラエティ豊かな食、魅力的な観光資源などの地域が持つポテンシャルを、地域内外の多様な人材の知恵やノウハウ、先進的な技術などにより最大限引き出し、持続可能な産業振興とそれを下支えする労働力の確保につなげるとともに、関係人口の創出・拡大や住み続けたいと思える魅力ある地域づくりを推進します。

宗谷地域

広大な土地を背景とした酪農や日本海とオホーツク海の特性を活かした漁業に代表される1次産業の振興と担い手の確保・育成を図ります。

利尻・礼文など魅力ある観光資源や風力など豊富な自然エネルギーを活かした、観光振興及び新エネルギーの導入・普及促進を図ります。

人と豊かな自然が共生する地域特性を活かした移住・定住につながる各種施策を推進するとともに、ロシア連邦サハリン州との多様な交流を推進します。

オホーツク連携地域

大規模で生産性の高い畑作や酪農、国内有数の生産力を誇るホタテ・サケの栽培漁業、森林認証材の利用促進など、豊富な農林水産資源を活用した地域産業の振興を図ります。

知床世界自然遺産*や流氷などを活かした観光の展開、モヨロ貝塚などオホーツク特有の歴史・文化の継承や気候特性を活かしたスポーツ合宿の誘致などを通じた関係人口*の創出・拡大を図ります。

人と自然が共生し、持続可能で活力あるオホーツク地域の形成を図ります。

オホーツク地域

良質な農林水産物を背景に、スマート農業*などICT*を活用した省力的・効率的な生産体制の整備や販路拡大などによる農林水産業の強化を推進するとともに、商品の高付加価値化や起業・創業の促進など食関連産業の振興を図ります。

優れた自然環境や気候特性など、多様な地域資源を活かし、ワーケーション*などを通じた関係人口の創出・拡大、移住・定住を推進するとともに、持続可能で安心して暮らせる脱炭素・循環型地域社会の形成に向けて取り組みます。

十勝連携地域

国内有数の「食の拠点」として農畜産業を中心とした関連産業や観光業、宇宙関連産業など、十勝の強みを最大限に活かした産業の振興に取り組みます。

また、豊富なバイオマス*資源の活用のほか、省力化や情報化などの技術を取り入れたスマート農業の推進、関係人口の創出・拡大等により多様な人材が活躍できる地域づくりに取り組みます。

十勝地域

豊富な農畜水産物を活用した商品開発や十勝ブランド力の強化を推進し、十勝の魅力溢れる資源を活かした観光地づくりを進めます。

脱炭素型の地域づくりと2050年までの「ゼロカーボン北海道*」の実現に向けた再生可能エネルギー*の利活用や、ドローン・自動運転等未来技術の産業利用に向けた取組を進めます。

また、農林水産業など地域産業を支える人づくりと、ワーケーションなど人材交流を促進するための環境づくりを推進します。

釧路・根室連携地域

我が国最大の酪農地帯の礎となる広大な草地を活かした農業、豊富な森林資源を背景とした林業、有数の漁場を有する漁業など、農林水産業の振興を図るとともに、管内の地域資源を活かした関連産業の振興を推進します。

世界遺産や国立・国定公園などの雄大で魅力ある自然や文化、食などを活かした観光の振興や関係人口の創出・拡大の取組を推進します。

豊かな自然環境を次世代に継承するための脱炭素社会*の実現に向けた取組や安心して暮らせるまちづくりを推進します。

我が国固有の領土である北方領土の早期返還に向けた取組を推進します。

釧路地域

生産性向上に向けたICT等の新たな技術の利活用、担い手の育成・確保、畜産の振興など、地域の基幹産業である農林水産業の体質強化と、恵まれた農林水産資源や社会基盤を活かした食関連産業などの振興により地域経済を活性化します。

国立公園や国定公園、アイヌ文化などの多様性に富んだ地域資源を活かした観光の振興やワーケーションを推進します。

カーボンリサイクル*技術の確立や森林の整備による吸収量の確保など脱炭素化*の取組を推進します。

根室地域

広大な草資源を活かした草地型酪農の推進やつくり育てる漁業の展開などによる基幹産業の振興、エゾシカの地域ブランド化の取組などの地域資源の活用促進を図るとともに、知床世界自然遺産や歴史・文化など、地域の魅力を活かした観光の振興やワーケーションを推進します。

北方領土対策、子育て支援の充実や地域固有の課題への取組などにより、人口減少社会における新たな視点での活力ある地域づくりを進めます。

第6章

計画の推進

第6章 計画の推進

1 計画推進の考え方

喫緊の重要課題への対応と北海道の強みを活かした政策の推進

本道は、全国を上回るスピードで急速に人口が減少しており、自然減・社会減の両面による人口減少の進行の緩和とともに、人口減少が地域に与える様々な課題への対応も同時に進める必要があります。

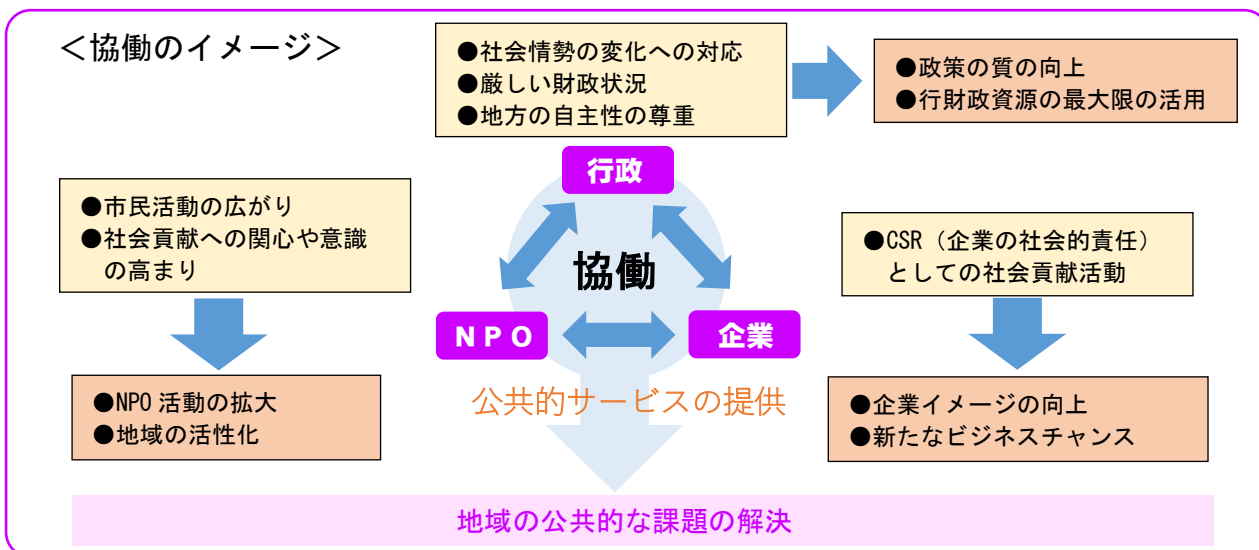
また、大規模な地震・津波、火山噴火や豪雨・豪雪など様々な自然災害リスクが存在する中、道民の生命・財産を守り、重要な社会経済機能を維持するといった強靱な北海道づくりに加え、本道が持つポテンシャルを活かしたバックアップ機能を強化し、国土全体の強靱化に向け、積極的に貢献していく必要があります。加えて、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行したことを踏まえ、感染症をはじめとした様々な危機に対する脆弱性の克服も必要となっています。

さらに、Society5.0*の実現に向けたデジタル化の推進や、気候変動問題の解決のための世界的な脱炭素化*に向けた施策を推進するとともに、自然環境や歴史・文化などかけがえのない恵みや豊かさ、広大で多様性に富む地域特性、高い食料供給力、多様なエネルギー資源など、北海道ならではの多様な価値と様々な強みを活かすほか、一層進むアジアの経済発展、北海道新幹線の札幌開業など、国内外の情勢変化を的確にとらえ、これらを踏まえながら政策を推進していきます。

多様な主体による協働の推進

この計画の「めざす姿」を実現していくためには、行政のみならず道民一人ひとりが多様な主体として、将来の北海道のめざす姿と進むべき道筋を共有し、それぞれの役割に応じながら、創意と工夫による産学官金*等の連携・協働の取組などを進めていきます。

また、地域住民が今後とも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう行政サービスを持続的に提供していくため、地域づくりの拠点である振興局の強化を図りながら、道と市町村の適切な役割分担により、地域づくりを進めていきます。



限られた行財政資源の最大限の活用

人口減少・高齢化の急速な進行といった喫緊の重要課題への対応や本道の強みを活かした政策を推進し、計画の「めざす姿」を実現していくため、限られた行財政資源の中で、ICT[※]も活用した業務改革と働き方改革を一層推進し、職員が持てる能力を最大限に発揮できる環境をつくり、道庁の組織活力を向上させ、道民サービスや政策の質の向上につなげていくとともに、施策・事務事業の精査・取捨選択などによる不断の見直しを徹底するなど、中長期的な視点のもと、機動的で持続可能な組織体制の構築や財政の健全化に向けた取組を着実に進めていきます。

2 計画の推進手法

重点戦略計画、特定分野別計画、地域計画による推進

総合計画は、長期的な展望に立って、道の政策の基本的な方向を総合的に示すものであり、個別具体的な施策・事業については、総合計画とは別に策定する次の計画に委ね、一体で推進することにより、実効性の確保に努めます。

特に、人口減少問題や強靱な北海道づくりのほか、デジタル化や脱炭素化[※]の推進などの喫緊の課題に対応するため、北海道創生総合戦略や北海道強靱化計画、北海道 Society5.0 推進計画、北海道地球温暖化対策推進計画を「重点戦略計画」として位置づけ、関連する施策を長期的な展望に立って重点的に推進します。

●重点戦略計画

北海道創生総合戦略、北海道強靱化計画、北海道 Society5.0 推進計画、北海道地球温暖化対策推進計画など喫緊の課題等を踏まえて重点的・分野横断的に推進する計画。

●特定分野別計画

保健・医療・福祉、環境、経済・産業、エネルギー、教育など分野ごとの具体的な政策を推進する計画。

●地域計画

本計画の「中期的な推進方向」、「政策展開の基本方向」や「地域づくりの基本方向」に沿って、広域的な連携地域ごとに地域の特性を踏まえて重点的に取り組む政策を推進する計画。

施策・事業の効果的、効率的な展開による推進

●PDCA[※]による政策のマネジメントサイクルを確立

総合計画を起点とした施策推進体系に沿って政策の目標や指標を設定(Plan)し、関連する施策・事業の実施(Do)による目標の達成状況や施策の必要性・有効性を毎年度の政策評価により客観的に把握・点検(Check)するとともに、予算編成や組織の見直し、重点政策の展開などに反映(Action)することにより、総合計画に沿った施策・事業の効果的、効率的な展開を図ります。

●道の重点政策等の推進

各年度の道の重点政策については、「政策展開の基本方向」に沿って展開するとともに、この計画と知事公約との一体的な推進を図り、実効性の確保に努めます。

3 計画の推進管理

点検・評価の実施

この計画の推進管理に当たっては、毎年度の政策評価を通じて、計画に掲げる指標の進捗状況はもとより、重点戦略計画や特定分野別計画などを含めた推進状況の一体的な管理を行います。

また、計画の推進状況について、北海道総合開発委員会の意見を伺いながら点検・評価を実施し、その結果を公表します。

道民の生活満足度などの把握

点検・評価に当たっては、必要に応じて道民の生活満足度や定住意識などを把握する道民意向調査を行うとともに、社会経済情勢の変化を適切に把握するための調査・研究を実施し、点検・評価結果に反映させます。

計画の見直し

点検・評価の結果や社会経済情勢の変化、さらには国における制度改革や各種計画の策定状況なども踏まえながら、必要に応じて計画の見直しを検討します。

4 計画の推進体制

全庁横断的な実効性重視の推進体制の整備

計画の推進に当たっては、重点戦略計画や特定分野別計画など関連する計画との一体的な推進が図られるよう、振興局を含めた全庁横断的な推進体制として北海道総合計画推進本部を設置したところであり、引き続き、実効性の確保に努めます。

さらに、市町村や住民と一体となって地域の実情に応じた政策を効果的に推進するためには、振興局が「地域づくりの拠点」としての役割を果たしていくことが重要となっており、総合出先機関としての主体性を確保する観点から、その体制の整備や施策・予算の充実など、振興局の一層の機能強化を図ります。

総合計画の効果的な推進

北海道総合計画（H28～R7）

長期的な展望に立って道の政策の基本的な方向を総合的に示す計画

本道の「めざす姿」とその実現に向けた「政策展開の方向」

重点戦略計画

北海道創生 総合戦略 (R2～R6)

○地域社会の創生に向けた施策を総合的・計画的に推進

北海道 Society5.0 推進計画 (R3～R7)

○北海道 Society5.0の実現に向けた施策を総合的・計画的に推進

北海道強靱化 計画 (R2～R6)

○北海道における国土強靱化施策を総合的・計画的に推進

北海道地球 温暖化対策 推進計画 (R3～R12)

○「ゼロカーボン北海道*」の実現に向けた施策を総合的・計画的に推進

長期的展望に立って関連する施策・事業を重点的に推進。

特定分野別計画

<例>

- ◇北海道医療計画
- ◇北海道環境基本計画
- ◇北海道農業・農村振興推進計画
- ◇北海道森林づくり基本計画
- ◇北海道観光のくにづくり行動計画

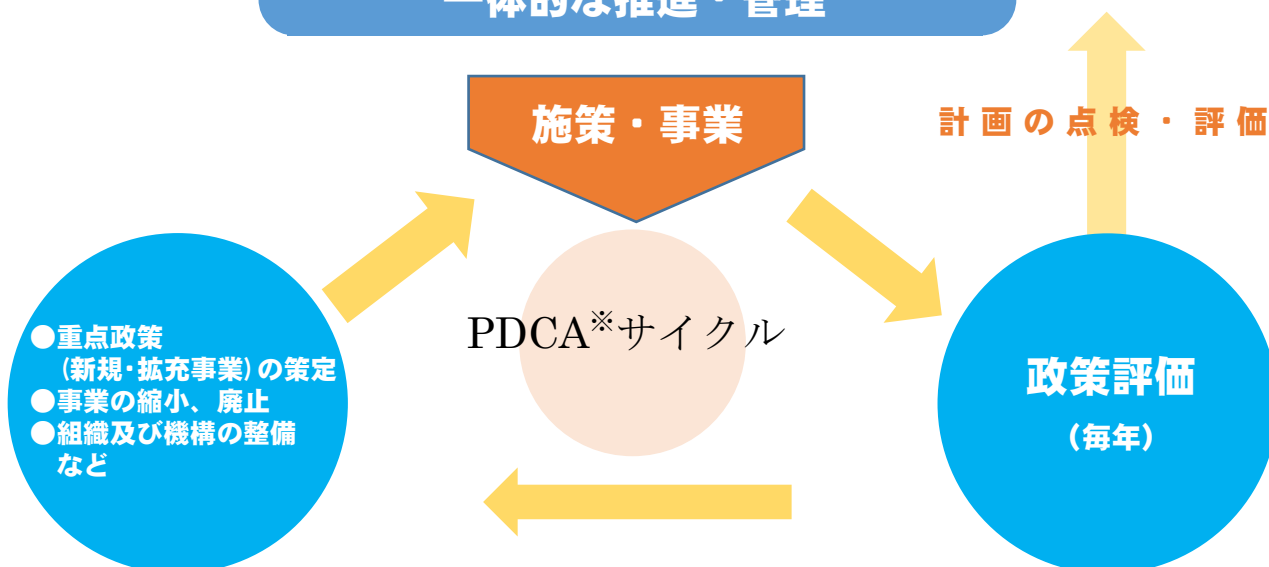
総合計画が示す基本的な方向に沿って策定し、具体的な施策・事業を推進。

地域計画

連携地域別 政策展開方針 (概ね5年ごと)

○広域的な地域ごとに地域振興を効果的に推進

一体的な推進・管理



総合計画と重点戦略計画との関連

北海道総合計画においては、道政の最重要課題である人口減少問題などに対応するため、北海道創生総合戦略、北海道強靱化計画、北海道 Society5.0 推進計画、北海道地球温暖化対策推進計画を重点戦略計画として位置づけ、関連する施策を長期的な視点に立って一体的に推進していきます。

<p>北海道創生総合戦略の重点戦略プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆「心豊かに・北海道暮らし」プロジェクト ☆「磨き高め輝く・北海道価値」プロジェクト ☆「未来をけん引・北海道人」プロジェクト ☆「北海道らしい関係人口の創出・拡大」プロジェクト ☆「北海道 Society5.0」プロジェクト 	<p>北海道強靱化計画の施策プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ★人命の保護 ★救助・救急活動等の迅速な実施 ★行政機能の確保 ★ライフラインの確保 ★経済活動の機能維持 ★二次災害の抑制 ★迅速な復旧・復興等
<p>北海道 Society5.0 推進計画の施策の柱</p> <ul style="list-style-type: none"> □「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現 □「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造 □「行政」～未来技術の活用を前提とした仕組みづくり □データの利活用～データの共有と活用の仕組みづくり □基盤整備～未来技術を支える社会的・人的基盤の整備 	<p>北海道地球温暖化対策推進計画の重点的に進める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ■多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化 ■豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用 ■森林等の二酸化炭素吸収源の確保

1 生活・安心

政策の柱

重点戦略計画

(1)安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの推進

☆心豊かに・北海道暮らし
☆未来をけん引・北海道人
★人命の保護

(2)安心で質の高い医療・福祉サービスの強化

☆心豊かに・北海道暮らし
☆北海道 Society5.0
★人命の保護
★救助・救急活動等の迅速な実施
□「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現

(3)豊かで優れた自然・生物多様性の保全とその継承

☆北海道 Society5.0
★人命の保護
★ライフラインの確保
★二次災害の抑制
★迅速な復旧・復興等
□「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現
■森林等の二酸化炭素吸収源の確保

(4)環境負荷を最小限に抑えた持続可能な社会の構築

★ライフラインの確保
★迅速な復旧・復興等
□「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現
■多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化
■豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用
■森林等の二酸化炭素吸収源の確保

(5)道民生活の安全の確保と安心の向上

□「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現

(6)安全・安心な生活の基礎となる防災体制の確立

★人命の保護
★救助・救急活動等の迅速な実施
★行政機能の確保
★迅速な復旧・復興等
□「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現

(7)強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮

★人命の保護
★救助・救急活動等の迅速な実施
★ライフラインの確保
★経済活動の機能維持
★二次災害の抑制
★迅速な復旧・復興等
□「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現
■多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化
■豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用

第1章
総合計画の考え方

第2章
北海道の「めざす姿」

第3章
中期的な推進方向

第4章
政策展開の基本方向

1 生活・安心

2 経済・産業

3 人・地域

第5章
地域づくりの基本方向

第6章
計画の推進

附属資料

2 経済・産業

政策の柱

重点戦略計画

(1) 農林水産業の持続的な成長

☆ 心豊かに・北海道暮らし
 ☆ 磨き高め輝く・北海道価値
 ☆ 未来をけん引・北海道人
 ☆ 北海道らしい関係人口の創出・拡大
 ☆ 北海道 Society5.0

★ 人命の保護
 ★ ライフラインの確保
 ★ 二次災害の抑制
 ★ 迅速な復旧・復興等
 □ 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造

(2) 本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造

☆ 磨き高め輝く・北海道価値

★ ライフラインの確保
 ★ 経済活動の機能維持
 □ 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造

(3) 中小・小規模企業の振興や地域商業の活力再生

☆ 心豊かに・北海道暮らし
 ☆ 未来をけん引・北海道人

★ 人命の保護
 ★ ライフラインの確保
 ★ 経済活動の機能維持
 ★ 迅速な復旧・復興等
 □ 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造

(4) 新たな成長産業への挑戦や研究開発の推進

☆ 磨き高め輝く・北海道価値
 ☆ 未来をけん引・北海道人
 ☆ 北海道 Society5.0

★ 人命の保護
 ★ ライフラインの確保
 □ 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造
 ■ 豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用

(5) 海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展

☆ 磨き高め輝く・北海道価値

★ ライフラインの確保
 ★ 経済活動の機能維持

(6) 道民をはじめ国内、そして世界中から愛される「観光立国北海道」の実現

☆ 磨き高め輝く・北海道価値

☆ 未来をけん引・北海道人
 ★ 人命の保護
 ★ ライフラインの確保
 □ 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造

(7) 良質で安定的な雇用の場づくりと産業人材の育成・確保

☆ 未来をけん引・北海道人

□ 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造
 □ 基盤整備～未来技術を支える社会的・人的基盤の整備

政策の柱

重点戦略計画

(1)協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築

- ☆ 心豊かに・北海道暮らし
- ☆ 北海道らしい関係人口の創出・拡大
- ☆ 北海道 Society5.0
- ★ 人命の保護
- 「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現
- 多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化
- 豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用

(2)北海道の未来を拓く人材の育成

- ☆ 心豊かに・北海道暮らし
- ☆ 未来をけん引・北海道人
- ☆ 北海道 Society5.0
- ★ 人命の保護
- 「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現

(3)だれ一人取り残さない、だれもが活躍できる社会づくり

- ☆ 未来をけん引・北海道人
- ★ 人命の保護

(4)ふるさとの歴史・文化の発信と継承

- ☆ 磨き高め輝く・北海道価値
- ★ 人命の保護

(5)世界に飛躍するスポーツ王国北海道の実現

- ☆ 磨き高め輝く・北海道価値
- ★ 人命の保護

(6)連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり

- ☆ 心豊かに・北海道暮らし
- ☆ 未来をけん引・北海道人
- ☆ 北海道らしい関係人口の創出・拡大
- ★ 救助・救急活動等の迅速な実施
- ★ ライフラインの確保

(7)持続可能な社会・経済を支える社会資本の整備

- ☆ 心豊かに・北海道暮らし
- ☆ 北海道 Society5.0
- ★ 人命の保護
- ★ 行政機能の確保
- ★ ライフラインの確保
- ★ 迅速な復旧・復興等
- 「暮らし」～未来技術を活用して将来にわたり安全・安心で豊かな生活を実現
- 「産業」～未来技術を活用した産業振興と多様な主体の連携による新たな価値創造
- 「行政」～未来技術の活用を前提とした仕組みづくり
- データの利活用～データの共有と活用の仕組みづくり
- 基盤整備～未来技術を支える社会的・人的基盤の整備
- 多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化
- 豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用